

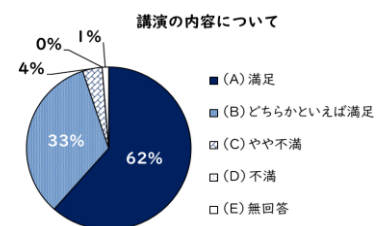
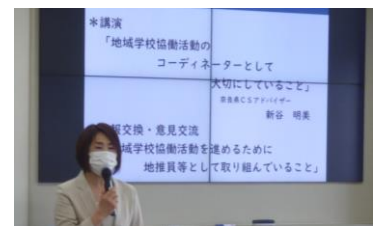
# 令和4年度 第1回奈良県学校・地域パートナーシップ事業 地域学校協働活動推進員等連絡会 実施報告書

- 1 日時 令和4年6月27日(月) 【第1部】10:00~12:00 【第2部】14:00~16:00
- 2 会場 奈良県立教育研究所 大講座室、中講座室1, 2
- 3 参加者 学校・地域パートナーシップ事業における地域学校協働活動推進員等 計90名
- 4 内容 10:00~10:05/14:00~14:05 開会  
 10:05~10:20/14:05~14:20 行政説明「地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員等の役割」  
 奈良県教育委員会事務局 人権・地域教育課 指導主事  
 10:20~10:50/14:20~14:50 講演「地域学校協働活動のコーディネーターとして大切にしていること」  
 奈良県CSアドバイザー 新谷 明美  
 11:00~11:55/15:00~15:55 情報交換・意見交流  
 「地域学校協働活動を進めるために地推員等として取り組んでいること」  
 11:55~12:00/15:55~16:00 閉会

## 5 講演の概要

環境整備活動や企業とのつながりを生かした活動等の実践を交えて、これまでの活動を「支援」から「協働」にすることを旨とするための地推員等としての役割や考え方について御講演をいただいた。

- 地推員等はコーディネート機能を担うとともに、地域と学校との協働を目指すための「目的」、「目標」、「立ち位置(地推員等とボランティアの違い)」を明確に理解してほしい。
- 地推員等には、ボランティアの方々子どもたちが主役として輝くような活動を設計し、活動全体を支えてほしい。そして、厚意で活動に参加してくれているボランティアの方々に学校の立場でお礼を伝えてほしい。
- 子どもたちの学びに繋がる活動にしていくには、学校と活動の実施に向けた協議を十分に重ね、活動の目的を学校とだけでなくボランティアとも共有する必要がある。そして、学校と地域との活動を協働にするため、地推員等が学校と地域の窓口となり、それぞれと信頼関係を築いていくと良い。
- 学校との共通理解のない一方的な支援は「『よかれ』の活動」になってしまい、学校の負担になってしまうこともある。また、子どもをお客さんにしてしまう活動や、地域を学校の便利屋にしてしまうといった活動にならないように十分に協議し、活動の場をコントロールする必要がある。
- コロナ禍で様々な制約がある中、どのように活動を進めていったらよいか悩んでいる地推員等の方は多いと思うが、学校を周辺地域だけでなく、広く社会と繋ぐという視点をもつと、地域住民との協働だけでなく、社会教育団体・企業・NPO・スポーツ団体等との協働も考えることができる。
- 活動が止まっても子どもたちの成長が止まる訳ではないので、活動を続ける事には意義がある。地推員等の知恵やアイデアで子どもたちに豊かな経験をさせていくことや、社会とのつながりを支えていくことは大きな意味があると思うので、これからも力を注いでいってほしいと思う。

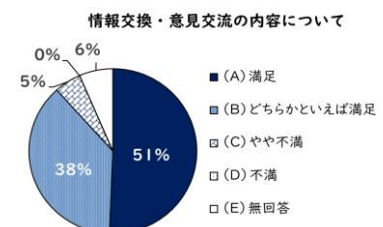


※地推員等・・・地域学校協働活動推進員等

## 6 情報交換・意見交流

【テーマ：地域学校協働活動を進めるために地推員等として取り組んでいること】

地推員等としての活動、学校と地域が熟議をした内容、所属の地域学校協働活動、活動の実現に向けた地推員等としての具体的な取組内容、熟議をした内容から生み出された新たな取組の5項目に沿ってグループで情報交換や意見交流を行った後、グループで話し合った内容を全体で共有することで、所属の地域学校協働活動を進めるために地推員等としてどのように取り組んだら良いかの考えを深めた。



## 7 感想

- 地推員等とボランティアの違いが良く分かり、地推員等としての役割についての認識を新たにすることができた。
- 同じ活動でも目的をしっかりと考え、熟議をすることによって子どもたちの学びに繋がっていくことが良く分かった。
- これから取り組むべき課題が少し見えてきました。モチベーションが高まる内容だった。
- 他の地域での取組の様子を知ることができ、自分の地域での取組の方向性を考えることができた。
- 他のグループの発表の中にも新しい取組や活動の参考になるヒントがたくさんあったので、参考にしたい。